4　　母子猿の相愛　　　　　　　　　　　 　動詞①　四段活用

豊前国の住人Ⅰ太郎入道といふものありけり。男なりける時、つねに猿を射けり。ある日、山を過ぐるに大猿ありければ、木に追ひのぼせて射たりけるほどに、あやまたずかせぎに射てけり。すでに木より落ちむとしけるが、何とやらむ物を木の股に置くａやうにするを見れば、子猿なりけり。おのがⅡきずを負ひて土に落ちむとすれば、子猿をｂ負ひたるをたすけむとて、木の股にｃ据ゑむとしけるなり。子猿はまた、Ⅲ母に付きて離れじとしけり。かくたびたびすれども、なほ子猿付きければ、もろともに地に落ちにけり。それより長く、猿を射ることをばとどめてけり。

【本文チェック】

①　ａ～ｃを、ひらがなで現代仮名遣いに改めて書きなさい。

　ａ（　　　　　　）　　ｂ（　　　　　　）　　ｃ（　　　　　　）

②傍線部Ⅰ～Ⅲを文節に分け、 ｜ で区切りなさい。

　Ⅰ　太 郎 入 道 と い ふ も の あ り け り

　Ⅱ　き ず を 負 ひ て 土 に 落 ち む と す れ ば

　Ⅲ　母 に 付 き て 離 れ じ と し け り

③②中の単語のうち、付属語をすべて〇で囲みなさい。

　Ⅰ　太 郎 入 道 と い ふ も の あ り け り

　Ⅱ　き ず を 負 ひ て 土 に 落 ち む と す れ ば

　Ⅲ　母 に 付 き て 離 れ じ と し け り

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

１　豊前国〔１〕（　　　　　　　　　）

２　入道〔１〕（　　　　　　　　　）

問２　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。

１　あやまたず〔２〕（　　　　　　　　　　　）

２　据う〔５〕（　　　　　　　）

問３　次の傍線部の意味として、現代語訳に入る最も適当なものを選べ。

１　かく危ふき枝の上にて、安き心ありてるらんよ。（徒然草）

　　（　　　）危なっかしい枝の上で、よくも安心して眠れるものだよ。

　ア　こうして　　　イ　どうして

　ウ　あのように　　エ　このように

　（　　　）

２　元日。なほ同じなり。（土佐日記）

　　元日。（　　　）同じ港にいる。

　ア　しかし　　イ　また

　ウ　やはり　　エ　もっと

　（　　　）

３　もろともにいみじう泣く。（竹取物語）

　　（　　　）ひどく泣く。

　ア　一緒に　　イ　さかんに

　ウ　一人で　　エ　大声で

　（　　　）

４　おのが行かまほしき所へぬ。（竹取物語）

　　（　　　）行きたい所へ行ってしまう。

　ア　お互いが　　イ　自分が

　ウ　相手が　　　エ　誰も

　（　　　）

【文法力 ✚】

問４　次の活用表の空欄を埋めよ。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 寄る | 飛ぶ | 書く | ふ | 基本形 |
|  |  |  |  | 語幹 |
|  |  |  |  | 未然形 |
|  |  |  |  | 連用形 |
|  |  |  |  | 終止形 |
|  |  |  |  | 連体形 |
|  |  |  |  | 已然形 |
|  |  |  |  | 命令形 |
|  |  |  |  | 活用行 |

問５　次の傍線部の動詞の終止形と、文中での活用形を答えよ。

１　「召しにやりて、いましめむ」と言ひて、（宇治拾遺物語）

　　　終止形（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

２　雨風吹かず。（土佐日記）

　　　終止形（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

３　さはることありて、なほ同じところなり。（土佐日記）

　　　終止形（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

【探究】

問６　太郎入道は俗人であったときいつも猿を射ていたが、あるとき母子猿の情愛のあり方を見て、それからというもの猿を射ることをやめてしまった。あなたは、筆者はこの文章によって何を伝えたかったと思うか。

ア　人間より深い動物の親子の情愛。

イ　太郎入道の慈悲深さ。

ウ　殺生はしてはならないということ。

（理由　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【解答】

【本文チェック】

①　ａ＝ように　ｂ＝おいたる　ｃ＝すえん

②　Ⅰ＝太郎入道 と ｜ いふ ｜ もの ｜ あり けり

　　Ⅱ＝きず を ｜ 負ひ て ｜ 土 に ｜ 落ち む と ｜ すれ ば

　　Ⅲ＝母 に ｜ 付き て ｜ 離れ じ と ｜ し けり

問１　１＝ぶぜんのくに　２＝にゅうどう

問２　１＝狙いを外さず　２＝置く

問３　１＝エ　２＝ウ　３＝ア　４＝イ

問４　（行ふ）　行 ｜ は ｜ ひ ｜ ふ ｜ ふ ｜ へ ｜ へ ｜ ハ行

　　　（書く）　書 ｜ か ｜ き ｜ く ｜ く ｜ け ｜ け ｜ カ行

　　　（飛ぶ）　飛 ｜ ば ｜ び ｜ ぶ ｜ ぶ ｜ べ ｜ べ ｜ バ行

　　　（寄る）　寄 ｜ ら ｜ り ｜ る ｜ る ｜ れ ｜ れ ｜ ラ行

問５　１＝言ふ・連用形　２＝吹く・未然形　３＝さはる・連体形

問６　（例）ウ　太郎入道は「入道」からわかるようにのちに出家しており、殺生が戒められている仏教の道に入った。そのきっかけがこの出来事であったかもしれないから。

　　観点　世俗説話集の中にも、仏教説話に分類される話も入っている。仏教的観念などの古典常識も踏まえて考えるとよい。

【現代語訳】

問３　１　このように危なっかしい枝の上で、よくも安心して眠れるものだよ。

　　　２　元日。やはり同じ港にいる。

　　　３　一緒にひどく泣く。

　　　４　自分が行きたい所へ行ってしまう。

問５　１　「呼び寄せて、戒めよう」と言って、

　　　２　雨（も降らず）風も吹かない。

　　　３　差し障ることがあって、やはり同じ場所にいる。